



## 計画敷地

“唐船千家の市”が沖合に存在した走島に注目した。走島は、瀬の浦から南東6kmに位置する有人島である。北西の本浦地区、東の唐船地区、南西の浦友地区の三つの集落から構成されている。“唐船千家の市”があったとされる海を望むことのできる場所を計画地とする。



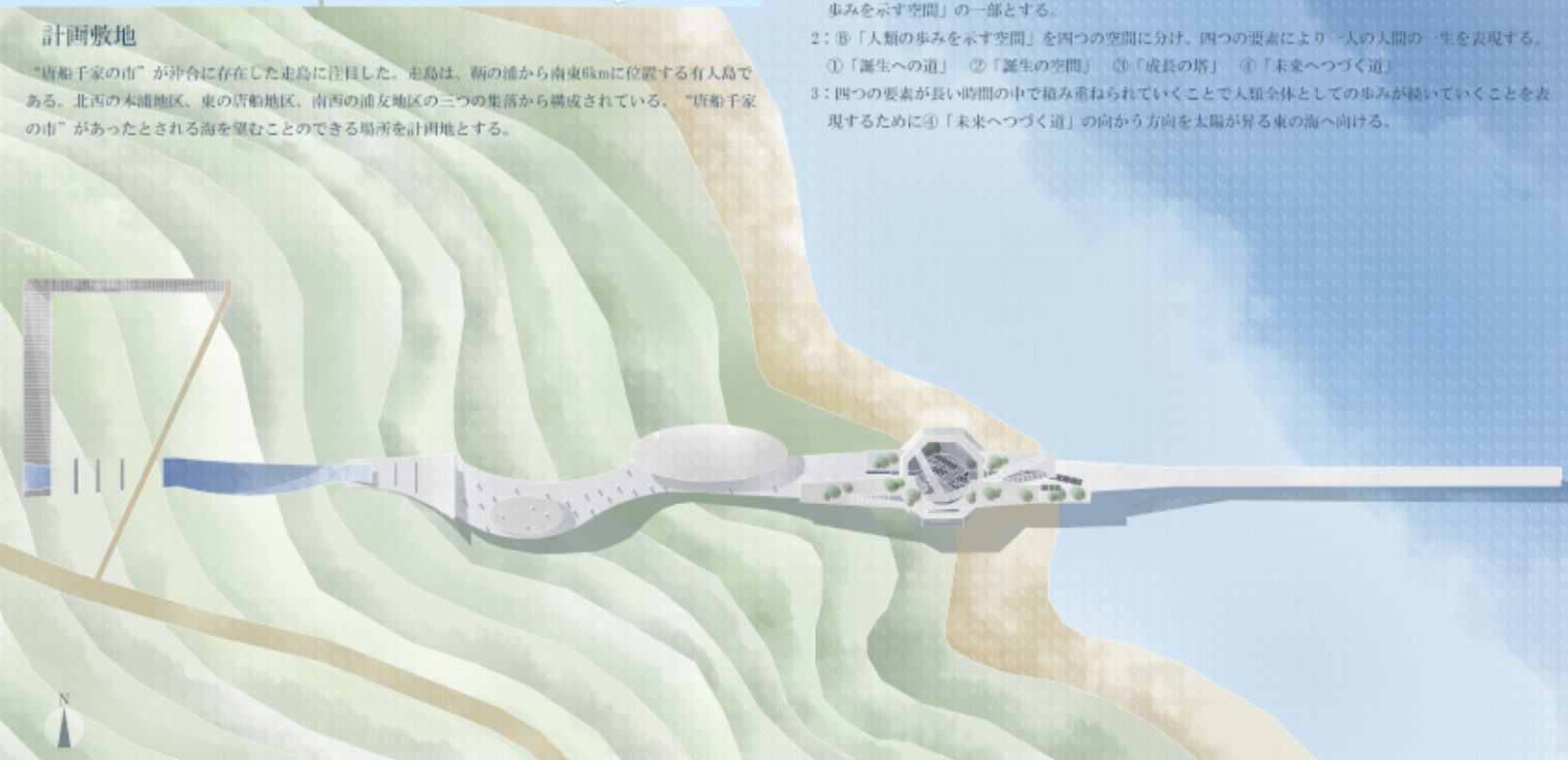
## ダイアグラム

人間の“一生”を体感できる抽象的な空間として以下④、⑤、⑥の空間を構成する。

④「自然の雄大さを示す空間」 ⑤「人間の歩みを示す空間」 ⑥「二つの町に起きた自然災害を示す空間」

次に上記した④、⑤、⑥の空間を以下のように整理する。

- ④「自然の雄大さを示す空間」と⑥「二つの町に起きた自然災害を示す空間」を上下に重ね⑤「人間の歩みを示す空間」の一部とする。
- ⑤「人間の歩みを示す空間」を四つの空間に分け、四つの要素により一人の人間の一生を表現する。
  - ①「誕生への道」
  - ②「誕生の空間」
  - ③「成長の塔」
  - ④「未来へつづく道」
- 四つの要素が長い時間の中で積み重ねられていくことで人類全体としての歩みが続いていくことを表現するために④「未来へつづく道」の向かう方向を太陽が昇る東の海へ向ける。



### 成長の塔

人間の「成長」には肉体的な「成長」と精神的な「成長」の二種類がある。一方が成長してももう一方が未熟であればそれは本当の意味での「成長」とは呼べない。成長の塔は、“一生”の中で人間が一番活動的に成長していく瞬間を木の幹と枝をモチーフにした塔の上部と木の根をモチーフにした塔の下部の二つに分け、それぞれ表現する。

#### 塔 上部

木の幹や枝は目に見える形で変化していく。この部分では、人間の肉体的な「成長」を示す。塔の上部に上がっていくにつれて配置する樹木の規模を大きくすることで体が変化していくことを表現する。

#### 塔 下部

木の根は地中に埋まり目には見えないが、地上にある木の幹と枝を支えるのに必要不可欠である。よってこの部分では、人間の精神的な「成長」を示す。人は生きていくうちに様々な課題に直面し、解決のため試行錯誤を繰り返す。課題を解決するための試行錯誤を様々な方向に乱立する柱で表現する。

#### 未来へつづく道

街に伸び、途中で途切れる「未来へつづく道」は、一人の人間の“一生”が終了し土地の記憶の一部となり、人類全体として再び“一生”を歩み始めていくことを示す。